

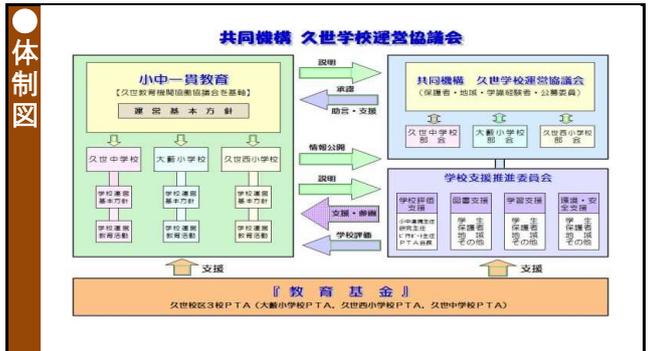
こんな活動です

「つながり」 地域の子どもは地域で育てる ～小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進～

| | | |
|--------|---------------|--------------------------------|
| 京都府京都市 | ●活動名 | ●関係する学校名 |
| | 共同機構久世学校運営協議会 | 京都市立久世中学校 京都市立大藪小学校 京都市立久世西小学校 |

| | | | | | | | |
|--------------------|---|----------------|-----------------|-------------|-------|----------|--------|
| 協働活動開始年度 | 平成 23 年度 | 関係学校数 | 3 校 | のべ学級数 | 52 学級 | のべ児童・生徒数 | 1515 人 |
| 活動区分 | 学校支援活動 | 地域課題解決学習 | 地域人材育成 | | | | |
| | 地域未来塾 | 放課後子供教室 | 外部人材を活用した教育支援活動 | | | | |
| 統括的な地域学校協働活動推進員等の数 | 配置人数 | 地域学校協働活動推進員等の数 | 配置人数 | | | | |
| | — | — | 4人 | | | | |
| 学校運営協議会 | 指定・設置日 | ボランティアの数 | 延べ登録人数 | 企業・NPO等との連携 | 有 | | |
| | 平成23年4月13日設置 | — | 176人 | — | — | | |
| 参考URL | http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=202503 | | | | | | |

| | | |
|------|----------------|----------------|
| ●連絡先 | 京都市教育委員会 生涯学習部 | ☎ 075-251-0456 |
|------|----------------|----------------|



●活動の概要・経緯

久世三校では、小小連携を基盤とした小中一貫教育を進める中で、学校課題解決のため久世三校合同で分掌部会、教職員研修会、授業研究や事後研修会を実施している。また、久世三校の授業規律や生活規律を一貫させる「久世スタンダード」を作成して活用している。さらに、児童・生徒の育ちの課題を連続した観点で見据えるために、小学校と中学校とが協働できることをねらいとして、平成23年に小中合同の学校運営協議会（共同機構久世学校運営協議会）を設置した。

教育課題を学校と保護者が協働で解決を図るために、学校運営協議会の多くの理事を保護者中心として組織し、課題を共有し、協働して解決の取組を進展させることにより、家庭教育は家庭で行うという機運を醸成させ、子供たちの学力向上を図る取組を推進している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

1. 小中一貫教育の推進…学校とともに小中一貫教育の充実に向けた協議・支援。
2. ピア・サポートの推進…社会性(ベースとなる自尊感情, 自己有用感)を育てる取組の支援。(ピア・サポート推進委員会)
3. 小小連携を軸とした学力向上「学力分析と対策」…小中合同教科主任会で課題を共有し、対策を図る。(学校評価支援推進委員会)
4. 「久世ノート」の作成…久世三校共通の家庭学習で活用するノートを作成する。(学習支援推進委員会)
5. スケアードストレート方式の交通安全教室…危険性を疑似体験し、交通安全意識の向上を図る。(環境安全支援推進委員会)

【実施に当たっての工夫】

1. 学校運営協議会理事会に客観性を持たせ、その信頼性を高めるために、公募により学識経験者(大学教授等)を招聘する。
2. 中学校区として運営する小中合同の学校運営協議会と学校支援推進委員会との連携を深め、それら学校運営協議会の理事・学校支援推進委員がコーディネーター役となり、保護者・地域参画のもと、それぞれの現状や課題を共有しながら、「久世スタンダード」の活用や小中合同教科主任会を開催するなど教育活動を充実させる。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

施設分離型の小学校・中学校(二小一中)でありながら、小中合同の学校運営協議会が設置している条件を生かし、学力向上に視点を当て、久世三校にまたがる教職員のチームを作りながら、主体的に学力分析の面で三校合同での検証を重ね、家庭・地域に対しても課題や改善策を投げかけ、リードしていく試みを進めてきた。現段階では学力調査での顕著な改善傾向は出ていないが、児童・生徒の学習意欲は高まりつつある。また、教職員、保護者、児童・生徒のそれぞれの行動指針「久世スタンダードver.2」の活用などを通して、三校教職員だけでなく、中学校区全体としての意識共有をさらに進めることができた。

●その他

「読書」をキーワードとして、校区の保育所、児童館、図書館、小学校、中学校で組織している久世教育機関協働協議会と緊密に連携している。また、久世PTA連合理事会を開催して、三校のPTAは同じ規約でそれぞれ活動している。



地域住民の畑で農作物の収穫体験



地域住民の方と木製ベンチを製作